

伊勢湾貧酸素情報（第 4 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下しており、三重県の沿岸域に沿って広い範囲に 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されています。

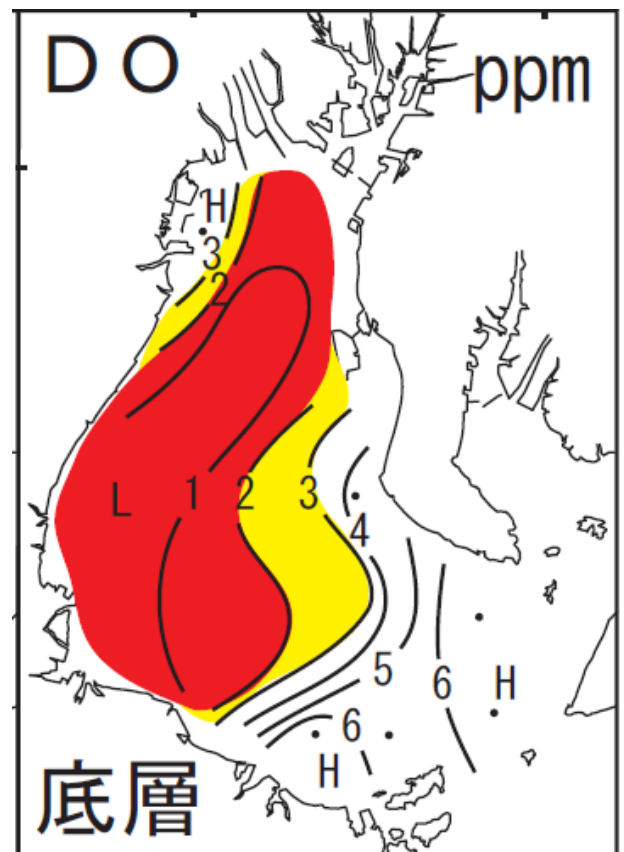
9 月 1 5 日の調査結果

9 月 15 日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 24.0～24.8℃、10m で 24.0～24.7℃、底層で 22.8～24.6℃の範囲にあり、表層は平年より低め、10m で平年並、底層ではやや高めとなっていました。

DO（溶存酸素量）は表層で 7.4～12.4ppm、10m で 1.3～8.0ppm、底層で 0.5～6.4ppm の範囲にあり、表層は平年より高め、10m と底層では平年並となっていました。

底層では三重県の沿岸域に沿って広い範囲に 2ppm 以下の貧酸素水塊が形成されています。

表層と底層の水温差は小さくなってきていますが、塩分の差などにより海水の上下混合が起こりにくく、今後も貧酸素状態は継続するものと思われます。



底層貧酸素水塊分布図